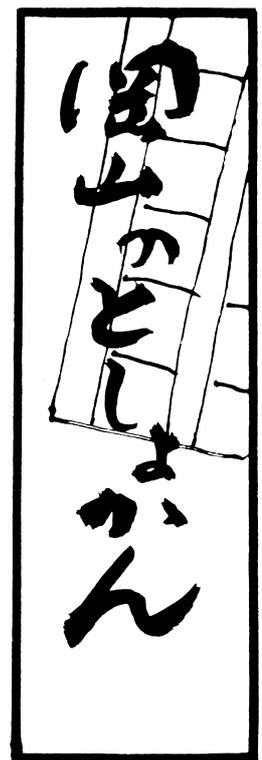




今号で「岡山のとしよかん」は一〇〇号を迎えました。記念すべき号のために二名の会員の方々にこれまでの協会および会報の歩んできた道のりを振り返っていただきました。

一〇〇号記念



No. 100

新見図書館と私
〜発刊一〇〇号記念に寄せて〜

新見市立新見図書館
館長 福意昭教

私が新見図書館に着任したのは昭和六十一年四月からであった。それも前年度に新館が完成したばかりで、仮図書館からの移転作業から始まり、二万冊弱の蔵書で七月八日に新館オープン記念式典を開催した。貸出は変形ブラウン方式をとっていたが、前年度に購入していたパソコンに図書データを入力していき、翌年六月ようやく手打ち入力が終わって、パソコンによる貸出を開始した。そして図書の貸出ばかりでなく、イベントを開催して貸出利用率を上げようということ、昭和六十二年七月から始めたのが「こどもお楽しみ会」であった。また、同

年十月には岡山県のへき地児童巡回文庫が廃止されたので、平成元年三月に移動図書館車「わかくさ号」を購入し、同年五月から小学校や中学校への運行を開始した。

私が岡山県図書館協会に入会したのは昭和六十一年度からである。今年で足掛け二十年がきた。今一度

「岡山のとしよかん」を見返して見ると各図書館の状況や人の動き、知人の寄稿などが懐かしく思い出される。当時倉敷市立中央図書館長だった故竹内時雄氏が岡山県都市図書館協議会を昭和六十三年四月から発足させ、日本先進図書館や、県内の図書館、岡山県都市図書館の状況や問題点などの情報交換を行っていた。

社会教育課が主催した読書ボランティア養成講座が昭和六十三年八月から翌年二月まで開催され、計七回の講座を受講して、同年三月より読書ボランティアとして活動を開始、現在もその当時の講座修了者が、新見図書館で年七回のこどもお楽しみ会を開催し、小学校への出張おはなし会やブックスタートなどの事業に参加している。昨年、新見読書ボランティアの会と改名し、平成十八年度には社団法人読書推進運動協議会として表彰された。

平成二年十一月から朗読ボランティア養成講座を開催した。翌年も同養成講座を継続して、平成四年十一月に新見朗読ボランティア連絡会が発足した。新見市広報の市報に

いみを月に一度、編集会議を開催し、テープに吹き込んで編集し、視覚障害者並びに高齢者施設等に送る活動を継続している。

昭和五十三年十一月から読み聞かせなどの活動を続けている新見子供読書会は、平成三年度に社団法人読書推進運動協議会より第二十四回優良読書グループに選ばれ表彰された。新見図書館はこれらのボランティア団体の人たちに大きく支えられている。

平成八年十一月には第二十五回岡山県読書大会が旧新見市民会館で開催され、新見朗読ボランティア連絡会が新見の昔話「低い栗の木」を十二名で朗読し、活動状況をスライドで実践発表した。直木賞作家の高橋治氏が「小説の中の女」と題して記念講演し、七百席の会場が満席であった。新館オープンから丁度十周年の年のことであった。

平成十年度には文部省委嘱事業を開催した。これは新見図書館とモデル六市町村（新見市・哲多町・哲西町・大佐町・神郷町・新庄村）の小学校と連携した児童の読書活動支援事業である。内容は、小学校に向

いていく「出張おはなし会」事業、

朗読ボランティア養成講座を開催した。翌年も同養成講座を継続して、平成四年十一月に新見朗読ボランティア連絡会が発足した。新見市広報の市報に

いみを月に一度、編集会議を開催し、テープに吹き込んで編集し、視覚障害者並びに高齢者施設等に送る活動を継続している。

昭和五十三年十一月から読み聞かせなどの活動を続けている新見子供読書会は、平成三年度に社団法人読書推進運動協議会より第二十四回優良読書グループに選ばれ表彰された。新見図書館はこれらのボランティア団体の人たちに大きく支えられている。

平成八年十一月には第二十五回岡山県読書大会が旧新見市民会館で開催され、新見朗読ボランティア連絡会が新見の昔話「低い栗の木」を十二名で朗読し、活動状況をスライドで実践発表した。直木賞作家の高橋治氏が「小説の中の女」と題して記念講演し、七百席の会場が満席であった。新館オープンから丁度十周年の年のことであった。

平成十年度には文部省委嘱事業を開催した。これは新見図書館とモデル六市町村（新見市・哲多町・哲西町・大佐町・神郷町・新庄村）の小学校と連携した児童の読書活動支援事業である。内容は、小学校に向

いていく「出張おはなし会」事業、

図書館で図書等を使ってレポートにまとめる「調べ学習」支援事業、小学校に児童図書を配本する児童書配本事業、通常火・木曜日午後六時までの開館を水・金・土についても午後六時まで開館する開館時間延長事業、色々な児童向けの出し物を一日にまとめて開催した「一日子ども図書館フェスティバル」の五事業を開催した。この事業は新見図書館と小学校の連携・協力のあり方を研究・実践する上で重要なイベントであった。当時、地域には、図書館は新見市立図書館しかなく、対象小学校が三十六校もあったため、その対応が心配されたが、新しい児童サービスを実践し、大きな成果を上げた。図書館は子どもにとって距離的に遠い存在であったが、学校と連携・協力することで子供の読書推進活動に大きく貢献できた。これらの活動は今でも継続している。

岡山のよかん 100年のよかん

倉敷市立水島図書館

館長 滝沢真知子

岡山県図書館協会の設立は昭和二十六年その当時個人会員は六十九人。それが平成十八年には三百七人。施設会員は昭和四十年の十八館から七十六館に増えています。

「岡山のとしよかん」を見ても近年は新館紹介が毎号のように掲載されており、新館建築への関係各位、関係部署の大きなご尽力が有ったことでしょうか。

特に平成十六年の岡山県立図書館新館オープンは待ちに待ったものでした。利用の多さを見ても県民の皆様の期待の大きさがうかがえます。

我が水島図書館でも岡山県立図書館で直接借りた資料を返したり、インターネットで予約した資料を借りに来られるお客様が数多くいらっしゃいます。どの方も借りてよかったです。近くの水島図書館で返せてよかったです。というお顔をされているように思います。そんなお客様と接することが出来るのはうれしいことです。

倉敷市では私が就職したころは倉敷図書館と水島図書館の二館だけで

した。それが今では倉敷中央、水島、児島、玉島、船穂、真備、ライフパーク倉敷図書室と七館がオンラインで結ばれました。資料検索や予約が自宅のパソコンからも出来るようになり、蔵書冊数は百七十七万冊。貸出し冊数もいまでは二十冊、あの頃は一冊か二冊でした。就職当時はブラウン方式で何でも手作業、貸出本に予約などがあれば書名カードを一枚一枚くって探していました。今は返却時にプリント印刷までして教えてくれます。まさに隔世の感があります。

私にとって図書館はいつも温かく迎えてくれる所という思いがあります。小学校の図書館がそうでした。高学年になると町の図書館へ、はるばると歩いていきました。そこには優しいおじさんが「よう来たなあ」という表情で迎えてくれました。夏

休みの窓を開け放した海の見える港の側の図書館でした。あのころから図書館に勤めたいという意識が芽生えたように思います。そして念願かなって玉島図書館に就職できました。当時金光図書館にいらした秋

田さん、盟友の黒崎さんらにお目にかかり、図書館人の温かさをよりいっそう感じました。先輩や同僚、他にも県内の市町村の図書館の方々に出会い、ご指導いただきここまで

過ごすことが出来ました。現在、毎日カウンターでお客様と接しています。十五年ぶりの二度目の水島図書館勤務です。この原稿を書いている先ほども「手作りですが皆さんにどうぞ」と中国産の竹で作った耳搔ぎを持って来てくださったお客様に「お礼を言うと、「以前も居たなあ」と話をしてくださってずっと利用していただきありがたいことだなと実感したところです。

図書館にはいろんな制約や問題があるとしても、図書館へ行けば「よう来たなあ」と温かい笑顔で迎えてくれた子供のころの図書館を忘れてしまうようなと思ってしまう。僭越ですがこの会報を読んでくださる方が各図書館で温かい笑顔でお客様に接してくださいたら図書館ファンが増えるのではないのでしょうか。

市町村合併後の図書館②

前回に引き続き合併後の各図書館の様子をお届けします。第二回は備前地域です。

●岡山市

平成十七年三月二十二日、旧岡山市、御津町、灘崎町が合併し、新岡山市となりました。旧岡山市に六館、

御津町と灘崎町にそれぞれ一館、あわせて八館で図書館サービスを行っており（他にも移動図書館や公民館図書コーナーがあります）。

まず、利用規則等を旧岡山市立図書館、御津図書館、灘崎町図書館で統一し、職員の意識や対応を合わせていく必要があるため、多くの話し合いを持ちました。ただし、合併とともに図書館の電算システムの統合ができず、当面は各図書館での運用となったため、利用規則等一部で統一できていないところがあり、今後の課題といえます。

また、システムの統合ができていないため、各図書館で利用者カード

が必要となり、蔵書検索や予約の処理でも不便を強いられております。

図書館資料の返却はこの図書館でも可能としましたが、御津図書館、灘崎町図書館へは連絡便が週二回しか巡回することができず、返却したのにまだ貸出データが残っているという問題も生じました。

懸案でありました図書館の電算システムは、平成十八年十二月から統合されます。そのために、御津図書館、灘崎町図書館ともに約二ヶ月の休館をいただき、バーコードの張替え作業やデータの移行作業を行います。また、図書館資料の有効活用や右記の作業を少しでも減らすため、



【平成18年4月1日現在】

旧岡山市立図書館の資料を御津図書館や灘崎町図書館へ移管する作業もしています。

これによって、岡山市立図書館はこの図書館でも、一枚の利用者カードで借りられ返せるようになります（足守図書館を除く）。また、図書館のホームページも統合し、蔵書検索は一度で約百万点の資料が検索でき、行事や催し物案内等も見やすくなります。システム統合で新たな課題や問題の発生もあるかもしれませんが、職員が協力して「本当」の合併を実現していきたいと思えます。

今後岡山市は、平成十九年一月に、建部町、瀬戸町と合併予定であります。合併により、多くの資料を利用できるようになる反面、さらなる地域の拡大は物流面での負担増が予想されますし、広くなった市域に均等な図書館サービスを実施していくという課題もでてきます。また、職員同士の意思疎通もしつかりしていかなくてはなりません。

図書館を取り巻く状況は厳しく様々な課題がありますが、ひとつひとつ解決し、身近で便利な図書館となれるよう努力していきたいと思えます。

（岡山市立中央図書館 千葉泰次郎）

●赤磐市



平成十七年三月七日、赤磐市は、旧赤磐郡内の山陽町・赤坂町・熊山町・吉井町の四町の合併により産声をあげました。岡山県の南東部に位置し、合併時の人口は四五、六四六六人、面積二〇九、四三平方キロメートル、大半を住宅地でしめるベッドタウンとしての性格の強い南部と、豊かな自然が残るものの中山間地にあり、少子高齢化が進む北部の二面性を持った市です。

合併により赤磐市立図書館は、旧山陽町立図書館を中央館、ほか三館を地区館とし、四館での複数館となり新たな図書館サービスを開始しました。

合併前に、それまでの四館それぞれの図書館運営について見直すとともに、複数館としての運営のため、貸出冊数の制限、開館時間、予約の扱いなど、全館で統一しておくべき要件のすりあわせを行いました。

しかし、合併前に電算システムの統合を行うことができなかったため、合併後も四館それぞれが別システムで運営をしていましたが、合併から一年半が経過した現在、四館のシステム統合作業が進んでおり、今年十二月にはまず地区館三館、そして平成十九年四月一日には中央館を加え、全館統合システムでのサービスが始まります。

システム統合により、利用者カード一枚で全館の資料が利用できるほか、四館が一丸となった住民へのより細やかな図書館サービスが展開できると期待しています。

合併により、赤磐市民は市内四館約二十万冊の資料の利用が可能になり、返却も四館どこからでも行うことができるようになりました。このことは、市民にとって、合併による大きなメリットといえると思います。しかし、合併は図書館にさまざまな課題も与えています。その一つが、資料の搬送に関する物流システムの確立です。今後、電算システムの統合で図書館間の資料の移動がより頻

繁になると考えられるため、早急に取り組むべき課題と考えています。

また、図書館からの遠隔地を含め市内全域へ向けての図書館サービスもまだまだこれからです。

現在、平成二十年の開館を目標に新中央図書館の建設が進んでいます。図書館は地域の文化と情報の拠点であるという共通認識のもと、すべての市民に役立つ愛される図書館を目指し新館準備に取り組んでいきたくと考えています。

(赤磐市立中央図書館

三宅康栄)

●和気郡

和気町は平成十八年三月一日、旧佐伯町と旧和気町が合併し誕生しました。

人口は、一六、四八〇人(平成十八年八月末現在)、町域は一四四・二二平方キロメートルです。

現在、町内には和気町立図書館と和気町立佐伯図書館の二つの図書館があります。どちらも教育委員会の社会教育課に所属し、図書館長は社会教育課長が兼務しています。

この二つの図書館は本館と分館の関係ではなく、並列館として運営しています。元々、和気郡北部教育委員会という同一教育委員会に所属し、

合併以前から協働体制が整っていたのを利用して、合併後も体制を大きく変えることなく、従来どおりの運営を行っています。

単独館運営から複数館運営に変更するに当たり、目指しているのは「サービスの統一化」です。貸出冊数、貸出期間、予約の取り扱い、コピーサービスの料金など、各館の窓口業務で同等のサービスが提供できるように、事前に協議し、共通の事務処理マニュアルを作成しました。

その一方、開館時間や休館日は地域性を考慮し各館ごとの設定にして、従来の利用者の方が慣れた利用時間にしていきます。

図書購入の選定、発注、受入、予算管理も各館ごとに行い、一括管理にはしていません。同じ町内で複数購入する本もあり、無駄に思われるかもしれませんが、システム統合していない今は、各館に最低限の新刊図書は必要と考え、購入しています。今現在、コンピュータシステム

市町名	合併前名称	合併後教育
岡山市	岡山市立中央図書館	岡山市立中央図書館
	岡山市立足守図書館	岡山市立足守図書館
	岡山市立伊島図書館	岡山市立伊島図書館
	岡山市立浦安総合公園図書館	岡山市立浦安総合公園図書館
	岡山市立西大寺図書館	岡山市立西大寺図書館
	岡山市立幸町図書館	岡山市立幸町図書館
	灘崎町中央図書館	岡山市立灘崎町図書館
	御津町立図書館	岡山市立御津図書館
玉野市	玉野市立図書館	玉野市立図書館
備前市	備前市立図書館	備前市立図書館
	日生町中央公民館図書室	備前市立図書館日生分館
	吉永町中央公民館図書室	備前市立図書館吉永分館
瀬戸内市	牛窓町立図書館	瀬戸内市立牛窓図書館
赤磐市	山陽町立図書館	赤磐市立中央図書館
	赤坂町中央公民館図書室	赤磐市立赤坂図書館
	熊山町立図書館	赤磐市立熊山図書館
	吉井町立図書館	赤磐市立吉井図書館
建部町	建部町立図書館	建部町立図書館
瀬戸町	瀬戸町立図書館	瀬戸町立図書館
和気町	和気町立図書館	和気町立図書館
	佐伯町立図書館	和気町立佐伯図書館

* 合併後の備前地域公共図書館

も統一されておらず、図書物流運搬体制も整備されていません。したがって、利用者の方は借りた図書館でしか返却できず、相互の資料を取り寄せることもできません。

今後求められてくるものは、「借りた本をどちらの図書館でも返却できる」資料相互返却サービスだと思います。これが可能になれば、両館をもっと気軽に利用でき、町内の統一感とサービスの広域化の向上に繋がると思います。

そしてその後、コンピュータシステムを統合し、一枚の共通カードでどちらの利用も可能になり、両館の図書資料と情報を共有できるようになるのが理想です。

この「情報」と「物流」という二大ネットワークの確保が図書館に課せられた当面の大きな課題です。合併後、約半年が経過しましたが、今のところ体制的に大きく変わったところはありませぬ。

より利用しやすい図書館になるためにはどうすればいいのか、どのような図書館が望まれるのかを常に意識して、今後、図書館の目指す方向と方針をよく検討し、図書館サービス計画を考えていきたいと思えます。

(和気町立図書館 三宅深雪)

☆個人会員の紹介☆

プーさん図書館のおばあちゃん

犬飼明子

(プーさん文庫代表)



「おばあちゃん、ここにある本をみんな知ってるって、ほんとう?」今年の四月、岡山市立吉備小学校に開設したプーさん図書館で何人も小学生からこう聞かれました。

「知ってるよ。なんでも聞いてね」私は八十三歳。ここにあるのは、私が五十四歳から始めた家庭文庫で増え続けたなじみ深い本ばかりです。

開館は毎週木曜日の午後一時から五時まで。私は貸出し係。昼休みに遊べる時間をさいて本を借りに来る子どもたちとの貴重な時間です。

プーさん図書館は「図書館」という名称を持つ本の小部屋です。吉備小学校の体育館二階の一角にソファと畳六枚の読み聞かせコーナー、その二倍のフロアーには登録と返却、貸出し用の机を置いています。窓の下の壁面に別注の書架を並

べて、現在二千冊を配架、あと二千冊の整備はこれからです。

「吉備小学校には学校図書館があるのになぜ、図書館を作るのですか」知人から、こんな質問をされたとき「子どもに一冊でも多くの本を」先ず心に浮かんだ答えはこれでした。

今、吉備小学校の学校図書館には一万七千冊の本がありますが、子どもは千人以上。本はまだまだ必要です。けれども吉備地域には身近に利用できる公共図書館がなく、読書の芽を伸ばす環境が十分とはいえませんが。

今年二月、「岡山市子ども読書活動推進の会発足記念学習会」に参加し、県立図書館副館長菱川廣光氏の講演を聞きました。その中で「図書館整備の有無」が子どもの読書にどう影響を与えるか、とりわけ私の心に強く響いたのはOEC Dの調査結果でした。

日本の十五歳の男女の読書習慣アンケートは先進三十二か国中、最下位。読解力は二度の調査で八位から十二位に下落。一位のフィンランドとの差は「図書館整備の差」が大であるとのこと。

菱川氏の指摘は長年の文庫経験を通して感じていたことの裏付けでした。

私は図書館利用が不便で自分の文

庫活動のために買った本を山積みにし、老年で体力の限界を覚え、本の処置を考え始めました。

「山積みの我が家の本、子どもたちが自由に読める場所はないかしら。」昨年の秋、私はプーさん文庫の横田悦子さんに相談しました。ざっと数えて五千冊。プーさん文庫で必要なのは千冊。あとは平成以降、大部分の本は眠ったままです。

横田さんはすぐ動き始め、先ず場所の決定、次に地域への呼びかけ、地域社会教育連携事業の一翼を担う子育てのための「プーさん図書館設立計画案」作り、運営委員会の組織作り、運営委員会の代表は地元中国学園松畑熙一学長、スタッフ募集と速いペースで進行了ました。最も人手と時間と費用のかかる本の整備は図書館学の専門家浅沼俊則氏、フィルムかけの技術は金光学園図書館の藤井教子氏。お二人の指導で眠っていた本は新しく蘇りました。別注の書架のニス塗りと看板は地元守谷澄男氏の協力で完成しました。

「子どもに本を」と呼びかけをして半年後、地元四十名を越す連携プレーで図書館は開館しました。スタッフは二十一名。コンピュータのない図書館は全て人手で運営しています。現在の登録児童数は四百七十四名。低学年が一位、中学年、高学

年と続く予想どおりの利用状況ですが、親しい六年生に聞いたところ「高学年はいろいろ忙しゅうて昼休みに行かれんのよ」とのこと。本当に今の子どもは忙しくて不自由そう。授業が終わると一斉下校で、図書館に来る子どもの数は限られています。そんな中で昼休みに本を返して借りて、読み聞かせやストーリーテリングも楽しみに来ます。

最近本を借りに来る四年生が二人、殺人的な忙しさに追われている私の助手をしてくれるようになりました。よく様子を見に来る吉備小学校の平松正校長もニコニコ見えています。

平松校長（私の教え子）とは四十六年前に広島に修学旅行に行き、そ



の時読んだ「原爆の子」の作文集は今、書架に並んでいます。このたびの開館のために運営委員になり学校としての最大の協力をしてくれました。

学校との連絡係は犬飼美栄子（息子の妻）。常駐の図書館スタッフ、運営委員会の事務局を引き受け、毎回大荷物を積んで家と学校を往復してくれています。

プーさん図書館のおばあちゃんの私は、こうしたスタッフや地域の人とともに本好きで豊かな人間性を持つ子どもが育つことを夢見ています。

岡山県図書館協会活動報告

新会員紹介

◎個人

中山 幸恵（高梁市有漢町
生涯学習センター）

事業報告

九月二十二日（金）
レファレンス講習会（参加六十二名）

講師・金子 寛 氏

（東京都立中央図書館）

例年は「整理技術講習会」を開催して「図書の選定と収集」、「図書の会計処理と原簿作成」、「図書の分類・目録」などを中心におこなってまいりました。今年度はより実務に役立

つ内容をということで「レファレンス講習会」を開催しました。金子氏には東京都立中央図書館のレファレンス事例などを中心にお話しいただきました。この講習会では、たくさん資料をいただきましたので今後の業務に役立てていただきたいと思っています。

今後の講習会等のご案内

◎指定管理者制度について

「図書館サービスのアウトソーシングと図書館の未来」と題して、東京学芸大学教育学部教授の山口源治郎氏にご講演して頂きます。開催日は十二月十一日（月）、会場は岡山県立大学で行います。

◎製本技術講習会

例年通り製本技術講習会を行います。講師は現在未定ですが二月頃岡山県立図書館で行う予定です。詳しい内容は後日ご案内します。各会ともに多くのご参加をお待ちしております。

編集後記

「岡山のとしよかん」が一〇〇号を迎えました。創刊号では「岡山県図書館協会報」、第四十号からは「岡山のとしよかん」と誌名を変更しながら現在に至っています。これからも岡山県内の図書館の様子や会

員の皆様の声をお届けしますので、よろしく願い申し上げます。

十月二十六日、二十七日の二日間 にわたって開催しました第九十二回 全国図書館大会岡山大会では総勢二、〇〇〇名を越える参加者をお迎えして、美作市在住の児童文学作家、あさのあつこさんの講演や各分科会で 研究討議等が行われました。大会では、たくさんの方々のお力をお借りして、無事終了することができました。ありがとうございました。この 図書館大会の様子は次号でお届けする予定です。また、次回の個人会員の紹介コーナーでは金光学園図書館の藤井教子氏が執筆してくださいませ。どうぞお楽しみにしてください。

平成十八年十一月三十日
〒七〇〇一〇八二三
岡山市丸の内二一六―三〇
岡山県立図書館
メディア・協力課 図書館協力班内
岡山県図書館協会
会長 渡 辺 真 道
(〇八六) 一三四四―一二六九